2018 年度

事 業 報 告 書

（2018.4 － 2019.3）

公益財団法人 都市活力研究所

目次

事業の状況

【公益事業1】 産学官の交流連携を促進するとともに人材育成、教育研修を実施することで、産業を振興し、地域社会の活性化を図る事業・・・

（2）都心近接エリアにおける鉄道沿線まちづくりに関する研究　（調査、資料収集）
（3）研究交流セミナー「これからの郊外、住まいと鉄道」　（講座、セミナー、育成）
3．まちの国際化に関する調査研究
（1）関西ツーリズムサポーターズ　（調査、資料収集）
（2）観光のひろば・観光イノベーションアカデミー　（講座、セミナー、育成）
（3）エリア MICE の推進に関する調査・研究　（調査、資料収集）

【その他事業】産業とまちの活性化のために実施する公益事業をより有効なものとするための補助的事業・・・・・・・・・・・・・・・15
1．創薬関連プロジェクトの推進支援
（1）（特非）バイオグリッドセンター関西の運営支援
（2）（一社）日本マイクロバイオームコンソーシアムの運営支援
2．エリアマネジメント活動の支援
（1）梅田地区における案内所業務への支援
（2）梅田地区エリアマネジメント実践連絡会の活動支援
（3）大阪エリアマネジメント活性化会議の事務局支援
3．（公社）都市住宅学会関西支部の運営支援
4．起業支援オフィス「GVH 大阪」の運営

事業の状況

【公益事業１】産学官の交流連携を促進するとともに人材育成、教育研修を実施することで、産業を振興し、地域社会の活性化を図る事業

１．ライフサイエンス分野における産業の振興

創薬やヘルスケア分野をはじめとするライフサイエンス分野において、大学等の有望な技術や研究テーマである創薬シーズの育成支援、創薬分野へのコンピュータの利用促進を図るための事業推進、技術経営プログラムの提供、さらには国際的な事業連携の課題等の調査を通じて、産業の振興を図る。

（1）創薬シーズの育成

A. 創薬シーズ相談会　（相談、助言）

創薬シーズを保有しビジネス化への意欲を持つ研究者からの相談に対し、産業界のニーズに精通した製薬企業の研究企画部門担当者が相談委員となり、研究開発の方向性について助言を行う。大阪医薬品協会の協力を得て 2010 年度に開始し、9 年目となる今年度は 4 回実施した。相談委員数は今年度末で 27 社 42 名。本会をきかっけに、1 件のシーズは製薬企業と共同研究を開始するに至った。

2015 年度からは、地方の大学に周知し創薬シーズを全国から収集するために、医療系産学連携ネットワーク協議会（medU-net）と連携するとともに、昨年度に引き続き案内チラシを Bio Japan 2018 (2018/10/10-12)で配布した。

また、大阪府が年 1 回実施する「創薬シーズ事業化コンペティション」に共催した。

日程	シーズタイトル	シーズ相談者	共催
4/3	マウスを用いた高次脳機能改善薬の自動的一括スクリーニングシステム	新潟大学脳研究所　システム脳生理学分野 教授 澁木克栄	medU-net
9/14	新規抗腫瘍薬	川崎医科大学　生化学教室 教授　山内明	medU-net
12/25	変形性関節症による疼痛の緩和薬	日本医科大学 整形外科・薬理学 大学院生　星川直哉	medU-net
1/8	ヒト脳機能解明への道程としての遺伝子改変マーモセットの作製	新潟大学 脳研究所 モデル動物開発分野 助教　中務胞	medU-net

（2）創薬分野におけるコンピュータ利用の促進

A. AI コンソーシアム（ LINC）　（調査、資料収集）

創薬分野における AI（人工知能）の活用を促進するため、京都大学、（国研）理化学研究所、（国研）医薬基盤・健康・栄養研究所をはじめ製薬企業や IT 企業とともに、2016 年度に立ち上げたコンソーシアムの事務局運営を行っている。今年度末で、参加機関は 111 機関、登録者数は 622 人となった。

今年度も昨年度に引き続き、製薬企業と IT 企業両者が参加する 30 のプロジェクトチームが、非競争領域における AI のプロトタイプシステムの構築を目指した。

今年度は、昨年度完成した 3 つの AI のプロトタイプシステムの評価検証を行い、そのうち「膨大な論文データより共同研究者を発掘する AI の創成」については、社会実装の準備に入った。また、新たに以下の 6 つの AI のプロトタイプシステムが完成した。来年度には、その評価検証を行う予定である。

・結合蛋白予測　　・深層学習を用いた高精度分子力場
・遺伝子の機能予測　　・結晶形予測
・付着粒認識 AI　　・アウトカムリサーチ(HEOR)

B. FMO コンソーシアム　（調査、資料収集）

創薬における計算機利用のうち、FMO（フラグメント・モレキュラー・オービタル）法という量子化学計算手法による蛋白質と化合物の結合状態を解析するアプリケーションの創薬現場での利用可能性を検証するコンソーシアムの事務局支援を、2015 年度より行っている。

今年度は、バイオグリッドHPCIプロジェクトのデータ等を利用し、FMO データベースを構築、（公社）日本薬学会で「FMO データベース公開記念シンポジウム」を開催した。

C. インシリコ創薬支援事業　（調査、資料収集）（講座、セミナー、育成）

創薬分野におけるスーパーコンピュータの利用（インシリコ創薬）を推進するため、調査、資料収集や、セミナー等を開催する。

・今年度も、（特非）バイオグリッドセンター関西、神戸大学等と協力し、アプリケーションソフトの講習会を実施した。

日程	タイトル	主催者等	参加者
5/18	第 394 回 CBI 学会研究講演会 「分子ロボティクス：これまでの成果と創薬応用への可能性について」	主催：情報計算化学生物学会(CBI 学会) 共催：当法人	56 名
5/28	バイオグリッド研究会 2018 ～産学共創における オープンサイエンスとデータ解析～	主催：（特非）バイオグリッドセンター関西 共催：当法人	36 名
9/28	第 398 回 CBI 学会研究講演会 「Beyond the pill」	主催：情報計算化学生物学会(CBI 学会) 共催：当法人	95 名

1/18	第 401 回 CBI 学会研究講演会 ここまで来た、臓器チップ～創薬活用における現状と課題～	主催：情報計算化学生物学会(CBI 学会) 共催：当法人	101 名
10/3 － 1/23	遠隔インタラクティブ講義 「計算生命科学の基礎 V（詳細参照）	主催：神戸大学、(国研)理化学研究所、(国研)産業技術総合研究等 後援：当法人	登録者 約 600 人

（詳細）遠隔インタラクティブ講義「計算生命科学の基礎 V
第 1 回　10/ 3　はじめに　計算生命科学の概要
第 2 回　10/10　臨床シークエンスの実際-情報解析を中心に
第 3 回　10/17　機械学習によるバイオビッグデータの実践的利用
第 4 回　10/24　X 線結晶解析・NMR・電子顕微鏡・AFM を統合した相関構造解析
第 5 回　10/31　二次代謝物のデータサイエンス
第 6 回　11/ 7　生命系の分子動力学シミュレーション
第 7 回　11/14　フラグメント分子軌道法に基づく構造生命科学
第 8 回　11/21　溶液中における生体関連分子複合系の自由エネルギー解析
第 9 回　11/28　分子シミュレーションを活用したインシリコ創薬支援
第 10 回 12/ 5　QM/MM 法の概略と応用
第 11 回 12/12　医薬品業界におけるデータサイエンティスト
第 12 回 12/19　さまざまな生命科学データの接続で見える新たな知見
第 13 回　1/ 9　シミュレーションと AI の融合による創薬
第 14 回　1/16　ビッグデータを活用した健康科学への挑戦
第 15 回　1/23　脳情報の可視化とその応用

・情報計算科学セミナー

バイオグリッド HPCI プロジェクトで利用している創薬アプリケーションの情報を発信することを目的に、医療・創薬・看護の分野における情報計算科学の研究事例や応用について、第一線の研究者がリレー形式でわかりやすく講義するもの。今年度、当法人は参加主催した。また、今後の取組みのあり方について検討を行い、バイオグリッド HPCI プロジェクト（KBDD プロジェクト）等で利用しているアプリケーションソフトのメニューを充実させることとした。

日程	タイトル	主催者等	参加者
5/24	医療保険のしくみ・財政とシミュレーション	当法人 理化学研究所 健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス 兵庫県立大学シミュレーション学研究科 兵庫県立大学工学研究科先端医工学研究センター AMEC 京都大学医学研究科	14 名
6/21	病院でのストレスを軽減するためには		9 名
7/26	画像認識技術と医療への応用		16 名
8/30	看護の質評価と AI		20 名
9/27	コンピュータ医用画像処理システムの基礎と応用		6 名
10/25	精神状態を評価するための脳機能解析		27 名
11/29	超音波の医療－その基礎と応用－		12 名
12/20	MEMS センサの人体計測応用		21 名
1/24	PrecisionMedicine と医療ビッグデータ解析		29 名

2/21	生命現象の科学とそのシミュレーション		10 名
3/28	創薬シミュレーション		10 名

（3）ライフサイエンス産業人材の育成

A. バイオ講座　（講座、セミナー、育成）

・ライフサイエンスアントレプレナー入門塾 2018

ライフサイエンス分野において事業開拓や起業に関心を持つ大学院生、大学・機関研究者、起業家を目指す若手研究者や企業の事業開発担当者を対象とした人材育成を目的とする実践講座である。2012 年度に開始し今年度は7年目となった。大学・研究機関・産業界の第一線で活躍する講師を招き、オムニバス形式の講義を通じて、ライフサイエンスビジネスの現状、課題並びに将来展望等、グローバルな観点も織り込んだ知識や考え方も交えながら、アントレプレナーシップやオープンイノベーションについて学ぶ機会を起業の入門編として提供している。参加者同士の交流を深める機会も提供し、異分野・異業種間のコミュニティの醸成にもつなげている。

今年度は新たに起業者のメンタル面での支援内容や、（国研）理化学研究所におけるシーズの実用化事例等の講義も盛り込み、大学院生 5 名を含む 25 名が参加した。

日程	タイトル	講師
5/19	−オリエンテーション ①ヘルスケア・健康科学ビジネスにおけるニーズを考える	−神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 特命助教　森一郎 −(公財)都市活力研究所 主席研究員　味村和洋 ①(株)国際総合知財ホールディングス 代表取締役社長　並木幸久
6/16	②勃興するバイオエコノミーと岐路に立つ日本 ③バイオベンチャーの目論見書解説	②神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 教授　山本一彦 ③(同)SARR 代表　松田一敬
7/21	④基礎研究活動と事業化 −理研シーズの事業化例− ⑤ビジネスにおけるアートとサイエンスのリバランス	④(株)Kokorotics 代表取締役社長　片岡洋祐 ⑤コーン・フェリー・ヘイグループ(株) シニアクライントパートナー　山口周
8/25	⑥知財戦略　知財実務 40 年から見えること ⑦人と組織を動かすプレゼンテーションの極意	⑥山本特許法律事務所 弁理士　山本秀策 ⑦(株)Smart Presen 代表取締役　新名史典
9/15	⑧健康寿命延伸への取組みとその課題 ⑨海外デジタル技術動向のキャッチアップ	⑧(特非)健康ラボステーション 理事長　浦田千昌 ⑨富士通㈱ シニアマネージャー　福井知弘
10/20	⑩ベンチャー起業とメンタルトレーニング	⑩(株)創晶 代表取締役社長　安達宏昭

11/17	⑪製薬産業におけるオープンイノベーション戦略 ⑫英国式イノベーションと日本文化	⑪塩野義製薬(株) 有岡伸悟 ⑫ケンブリッジコンサルタンツ(株) 代表取締役社長　佐相宏尚
12/15	⑬リーダーシップの本質と実践	⑬FORESIGHT&LINX 代表取締役社長　能見貴人

・イノベーションデザインマネジメント講座

アイデアを事業に育てるまでのマネジメント力向上を目的に、参加者の持つ特許実例を題材にした全３日間の講座を、神戸大学とともに開講した。

文部科学省次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）の採択を受けた。

日程	タイトル	講師	参加者
1/12	シーズそのものの範囲を広げる	神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部 准教授　鶴田宏樹 神戸大学大学院工学研究科道場 「未来社会創造研究会」 特命助教　祇園景子	12 名
1/19	ソリューションを設計する		9 名
1/26	情報価値を検討する		14 名

B. 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー （講座、セミナー、育成）

ライフサイエンス分野で最先端の研究を先導する関西の研究者を招き、最新情報の提供及び参加者同士の交流の場を提供することを目的とし、2014 年度から毎年 4 回開催している。主催は当法人と（特非）近畿バイオインダストリー振興会議、共催は（特非）バイオグリッドセンター関西、後援は関西医薬品協会である。

今年度は、特別企画として在大阪英国総領事館の協力を得て、英国からゲノム医療の専門家を招き英国の研究開発の実績と展望を紹介した。

日程	タイトル	講師	参加者
第 16 回 7/3	①細胞老化による 発がん制御機構の解明とその制御 ②iPS 細胞を用いた 再生医療の実用化に向けて	①大阪大学 微生物病研究所遺伝子生物学分野 教授　原英二 ②大日本住友製薬(株) 取締役執行役員　木村徹	84 名
第 17 回 9/27	①ウイルス感染に対する 宿主核内システムの応答機構 ②体内時計メカニズムと調節機構	①（国研）医療基盤・健康・栄養研究所 リーダー　今井由美子 ②（国研）産業技術総合研究所 副研究部門長　大西芳秋	44 名
第 18 回 12/5	【特別企画】英国のゲノム医療の研究開発：実績と今後の展望 ①英国におけるゲノム情報に基づく 医療開発推進戦略 ②英国内外における産学連携	①Genomics England Professor John Mattic, CEO ②Genomics England Dr. Mark Bale,Head of Scientific Partnerships ③NHS England Gareth Arthur,Director of Policy and Strategy	72 名

	③イングランド地域における ゲノム医療推進に向けた取組み ④Discussion	Ellen Graham,Deputy Director, Genomics ④英国総領事館 国際通商部 主席対英投資担当官　ステファン・ベングトソン	
第 19 回 3/5	①ネットワーク構造から生まれる 命システムの恒常性 ②活性型インテグリン β7 を 標的とした多発性骨髄腫に対する 新規 CAR T 細胞療法の開発	①京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 教授　望月敦史 ②大阪大学大学院 医学系研究科 癌幹細胞制御学　准教授　保仙直毅	34 名

C. スマートウェルネス・オープンセミナー　（講座、セミナー、育成）

健康・医療分野の産業振興に資する新たなビジネスモデルや新たな医療関連サービスの創出を目指して、健康医療関係の専門家や有識者を招き、本分野の最新情報を提供するセミナーを開催している。

今年度は「看工融合の未来と Society5.0」というタイトルで開催し、講演後に講師と参加者との意見交換も行った。

日程	タイトル	講師	参加者
第 24 回 3/15	看工融合の未来と Society5.0	大阪大学大学院 医学系研究科 バイオデザイン学研究講座 特任教授　山田憲嗣	10 名

（4）ヘルスケア産業のあり方に関する調査・研究

A. グローバルヘルスイニシャティブ　（調査、資料収集）

健康・医療分野の諸機関の国際展開と国際連携を支援する機能を持つ拠点を大阪・関西に置くことの実現可能性を調査するために、昨年度より大阪商工会議所等と共に関係機関連絡会議を実施している。

今年度は、調査結果をとりまとめ、ヘルスケア分野の大阪における産業振興の観点から、海外企業と国内企業とが共同研究や共同開発等容易に連携しうる仕組みを構築することが重要という方向性を見出した。また、SDGs としての健康・医療・福祉をテーマにしたセミナーを1回開催するとともに、本会議のメンバーの泉大津市が主催するシンポジウムに共催した。

日程	タイトル	講師	参加者
第 1 回 8/31	①過去からの未来への万博と 2025 に向けた未来ビジネス ②グローバルデジタルヘルス基盤の動向と インドとのパートナーシップ	①経済産業省近畿経済産業局産業部 次長　石原康行 ②クラウドセキュリティアライアンス 代表理事　笹原英司	40 名
第 2 回 1/15 共催	①食による予防医学機能性おやつ プロジェクト ②高齢社会における栄養の役割 ～健康寿命の延伸にむけて～他、 リレープレゼンテーション 14	①早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所　教授　矢澤一良 ②帝塚山学院大学 学長　医学博士　津田謹輔	110 名

2. 起業家と起業マインドを育てるエコシステムの形成

起業家や起業支援者が集まり、あるいはふ化する魅力ある環境の形成を通じて、産業の振興を図る。

(1)起業家人材の育成

A. GVH Demo Day, Meet Up （講座、セミナー、育成）

起業家支援オフィスである GVH 大阪の会員メンバーを中心に、在阪起業家のさらなる成長を促進することを目指し、投資家との接点づくりのための GVH Demo Day、起業に関する知見を広げるための Meet Up を、(株)サンブリッジグローバルベンチャーズとともに 2015 年度より実施している。

今年度は、Meet Up の対象者を英語話者に設定する回を設けたり、学生の参加を促す等して、若手社会人・起業家、及び外国人のコミュニティ形成強化にも努めた。

※GVH 大阪はその他事業を参照　※GVH Demo Day は実施見合わせ

日程	タイトル	講師	参加者
4/13	GVH Meetup #21「Habitat Meetup 第 4 回」	モデレータ:Tugi Günes	8 名
5/24	GVH Meetup #22「Habitat Meetup 第 5 回」	モデレータ:Tugi Günes	15 名
6/15	GVH Meetup #23「GVH Startup Basic 第 1 回」	(株)ダルマテックラボ 代表 牧野成将 (株)スペースエンジン 代表取締役 野口寛士	23 名
6/26	GVH Meetup #24「Habitat Meetup 第 6 回」	モデレータ:Tugi Günes	7 名
7/18	GVH Meetup #25「GVH Startup Basic 第 2 回」 シリコンバレーに学ぶアントレプレナーシップ	マーク加藤	33 名
8/7	GVH Meetup #26「GVH Startup Basic 第 3 回」 会社を作る際に必要なこと	司法書士 稲津喜久代	9 名
8/9 8/21	GVH Meetup #27「Habitat Meetup 第 7 回目」	モデレータ:Tugi Günes	11 名 10 名
10/1	GVH Meetup #28「GVH Osaka 会員交流会」	モデレータ:Tugi Günes	21 名
10/30	GVH Meetup #29「GVH Startup Basic 第 4 回」 スタートアップの資金調達	ハックベンチャーズ(株) マネージング・パートナー 金沢 崇 (株)スペースエンジン 代表取締役 野口寛士	23 名
11/30	GVH Meetup #30「GVH Startup Basic 第 5 回」 起業のアイデアの見つけ方	(株)スペースエンジン 代表取締役 野口寛士	6 名
1/15	GVH Meetup #31「GVH Startup Basic 第 6 回」 創業メンバーの見つけ方	(株)スペースエンジン 代表取締役 野口寛士 ヤムスクロール(株) 代表取締役 水上翔太	16 名

		(株)Nolem 共同代表兼 CEO　西本俊勲 共同代表兼 COO　小林大起	
2/18	GVH Meetup #32「GVH Startup Basic 第 7 回」 ビジネスモデルを組み立てる	(株)スペースエンジン 代表取締役　野口寛士	6 名
3/18	GVH Meetup #33「GVH Startup Basic 第 8 回」 １人目のユーザーを獲得するには	(株)スペースエンジン 代表取締役　野口寛士	10 名

B. GVH Startup Camp　（講座、セミナー、育成）

2016 年度より、起業家の輩出を目指して開始した大学生、若手社会人を対象とする短期集中型起業家育成プログラムを、今年度は 8 日程で実施した。

日程	タイトル	講師	参加者
8/18	①　アイデア＆チームビルディング	京都工芸繊維大学 特任准教授　Sushi Suzuki (株)ダルマテックラボ 代表　牧野成将	14 名
8/19	②　アイデア＆チームビルディング	京都工芸繊維大学 特任准教授　Sushi Suzuki (株)ダルマテックラボ 代表　牧野成将	14 名
8/25	③　ソフトウェア基礎講座	(株)クロノス　ラーニンググループ 講師　村山雅彦	14 名
8/26	④　ハードウェア基礎講座	(株)ダルマテックラボ KMG マネージャー　コナー・カーク	14 名
9/1	⑤　ビジネスモデル検証ワークショップ	ラーニング・アントレプレナーズ・ラボ(株) 代表取締役　堤孝志	14 名
9/8	⑥　プレゼンテーション手法ワークショップ	京都工芸繊維大学 特任准教授　Sushi Suzuki	14 名
9/9	⑦　先輩起業家によるメンタリング	akippa(株) 代表取締役社長　金谷元気	14 名
9/15	⑧　Demo Day（成果発表会）	(集大成として、一般オーディエンス、ベンチャーキャピタル、起業家の前で発表)	62 名

C. スーパーコンピューティングコンテスト　（表彰、コンクール）

大阪大学サイバーメディアセンターと東京工業大学学術国際情報センターが、科学技術分野の若手人材育成に寄与することを目的に毎年度行っている、高校生・高等専門学校生を対象としたスーパーコンピュータのプログラミング・コンテストであり、当法人は共同主催者として支援している。

当法人が関わってから 12 回目となる今年度は、本選を 8 月 20 日～8 月 24 日に開催した。全国から予選を勝ち抜いた 22 チームの約 60 名が大阪大学、東京工業大学に集結し、大阪大学のスーパーコンピュータを用いて課題を解くプログラムを作成し、その解答の正確さ、速さを競った。

優勝	灘高等学校 Anantash
2 位	大阪府立大手前高等学校 dispro
3 位 学会奨励賞（電子情報通信学会情報・システムソサイエティスーパーコンピューティング奨励賞、情報処理学会若手奨励賞）	宮崎県立宮崎西高等学校 SHIROXTL

（2）世界の先進事例の紹介と海外へ向けた情報発信

A. 国際会議「Hack Osaka」　（講座、セミナー、育成）（表彰、コンクール）

2013 年度より、大阪・関西における起業マインドを醸成し、地域起業支援コミュニティを活性化するため、海外のイノベーションへの取組みの先進的事例を紹介するとともに、国内外の起業家を対象としたビジネスプランコンテストや交流促進のためのイベント、商談会等の企画運営を大阪市とともに行っている。

今年度は、テーマを「イノベーションエコシステムの構築に向けて－Paradigm Shift toward Hack Osaka Movement－」として 3 月 13 日に実施した。参加者は 757 名（うち外国人比率は 14%）であった。

タイトル	登壇者等
グローバルチャレンジャーズトーク	MY DREAM、SKYAH　代表　原ゆかり
キーノートスピーチ	Rockstart 創業者　Oscar Kneppers
パネルディスカッション 1	she1K、WantThingsDone　設立代表者　Christina Teo リスボン高等技術研究所　教授　Pedro Fazenda メルボルン・ヘルス・アクセラレータ共同設立者 Christopher Kommatas 京都工芸繊維大学　特任准教授　Sushi Suzuk
インターナショナルピッチコンテスト	金賞： NIRAMAI Health Analytix Private Limited(インド。熱画像診断による乳がん早期発見システム) 銀賞：no new folk studio Inc.(日本。モーションセンサー付きシューズ) 銅賞：Fooyo （シンガポール。AI による旅行プラン提案、スマートナビゲーション） O-BIC 賞：Acumen Research Laboratories （シンガポール。感染症診断キット）
パネルディスカッション 2	(株)i-plug 代表取締役社長　中野智哉 akippa(株)　代表取締役社長　金谷元気 バリューマネジメント(株)　代表取締役社長　他力野淳 (株)フリープラス　代表取締役社長　須田 健太郎

【公益事業２】まちづくりを推進し、都市の活性化を図る事業

１．都心まちづくり等のあり方に関する調査研究

新しいまちづくりのあり方について産学官で議論する場をつくり、今後の新しい方向性の提言等により、新しいムーブメントの醸成に寄与する。

（1）UII まちづくり研究会　（調査、資料収集）

大阪都心部の活性化に向けて、これからのまちづくりのあり方を研究する研究会を昨年度に設置し、調査研究を行っている。具体的には、大学との共同研究２件、当法人による研究１件を行い、テーマ及び内容は以下の通りである。

A. うめきた周辺地域におけるクリエイティブ人材誘引のための職住環境のデザイン

うめきた地区の周辺地域は、住工商混在地域であり、産業の空洞化に伴い都心居住が進む一方、コミュニティの醸成や、まちに対して新たな価値を創造するクリエイティブ人材誘引のためのブランド構築等の課題を抱える。

うめきた地区とその周辺の地区において良好な相互依存関係を育むために、遊休不動産の活用による都市再生の好循環を生み出せる仕組みや、新しいエリアマネジメント等の方策を考案して職住環境整備につなげることを目指し調査研究を行う。

今年度は、対象エリアにおけるクリエイティブ人材の発掘と情報発信及びソーシャルビジネス・コミュニティビジネスに関する情報収集を行った。

調査体制：大阪大学研究者との共同研究
大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻
都市再生マネジメント領域
教授　加賀有津子　、講師　武田裕之

B. コミュニティ活動を通じた地域文化資源発見

従来の発想にとらわれない新しい視点での地域文化資源を定義・抽出・編集することにより、大阪の「キタ」エリアの魅力を語るストーリーを導き出すとともに、まちを使いこなす人材を育成することを目的に、「キタ再発見の会」を 4 回開催した。

日程	タイトル	講師	参加者
5/17	古地図で愉しむ「大阪くらしの今昔館」	(株)竹中工務店 大阪本店 技術担当顧問　酒井裕一	52 名
7/4	地域につながるビル再生ストーリー&大淀東地域の街の今	オルガワークス(株) 専務取締役　細川裕之	43 名
9/14	変わりゆく中津と変わらない中津の魅力 ＆人と人とをケンチクを通してつなげる試み	ＳＰＡＣＥＳＰＡＣＥ 一級建築士事務所 岸上純子	44 名
2/1	地域の活動の場「廃校活用でまちをつくる北天満」	北天満地域社会福祉協議会 会長　長本幸三 北天満連合振興町会・浪花町中振興町会 会長　奥一朗 （一社）うめらく代表　山田摩利子	32 名

C. 大阪の個性化とまちづくり

大阪が誇る地域文化資源である食をシンボライズする拠点を新しい視点に基づいて大阪都心部に形成することにより、地域ブランド力を向上し、もってまちづくりの推進と関連産業の振興を図る方策について検討した。

今年度は、拠点となり得る場の運営者へのヒアリング、国内外の参考事例（福岡、マドリッド）の収集を行うとともに、大阪・食のランドマークの検討を行った。

調査体制：大阪市立大学研究者との共同研究
大阪市立大学経営学研究科
教授　小林哲

（2）UII まちづくりフォーラム　（講座、セミナー、育成）

当法人主催のまちづくりに関するセミナーの呼称を、昨年度から「UII まちづくりフォーラム」に統一し、まちづくりに関する様々な話題の提供を目的として、今年度は 5 回開催した。

日時	タイトル	講師	参加者
6/22	空き家再生でまちブランド化 ～がもよんモデル～	(一社)がもよんにぎわいプロジェクト 代表理事 RPLAY　OFFICE 代表　和田欣也	36 名
10/4	エリアリノベーション ～大阪市阿倍野区での取組み～	丸順不動産(株) 代表取締役　小山隆輝	43 名
12/13	これからの都市再生 ～スマートシティ実現に向けて	国土交通省 大臣官房技術審議官（都市局担当）　徳永幸久 大阪市　都市計画局長　高橋徹 (株)日本総合研究所　調査部　主任研究員　野村敦子 筑波大学システム情報系社会工学域　教授　谷口守	151 名
1/30	自分のまちは自分でつくる～郊外の不動産を活かすリノベーションの取組み	ダマヤ・カンパニー(株)　代表取締役　木本孝広	42 名
3/28	ソーシャルデザインをまちづくりに活かす	青空(株)　代表取締役　清水柾行 （特非）Co.to.hana　ミュニティデザイナー　丸毛幸太郎 同志社大学　政策学部　教授 服部篤子 大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 特任研究員　弘本由香里	80 名

（3）UII まちづくりレターの配信　（調査、資料収集）

まちづくりに係わる様々な話題や動向を調査して、レター形式で情報を配信するもの。
今年度は4回配信した。

日程	タイトル	筆者、監修者
8/31	空き家再生でまちブランド化～がもよんモデル～	(一社)がもよんにぎわいプロジェクト 代表理事 RPLAY　OFFICE 代表　和田欣也
11/26	福岡の屋台の最近の動向について	当法人
11/30	エリアリノベーション～大阪市阿倍野区での取組み～	丸順不動産(株)　代表取締役　小山隆輝
3/25	（特非）AKITEN の取組み～及川代表に聞く～	（特非）AKITEN　代表理事　及川賢一

2．鉄道沿線まちづくりに関する調査研究

大都市近郊部の高齢化や人口減少等の課題に対応するため、鉄道の駅を中心としたコンパクトなまちづくりを目指し、鉄道沿線価値の維持・向上に向けた調査研究を行い、提言につなげる。

（1）コンパクトシティ形成促進方策に関する研究　（調査、資料収集）

大都市近郊エリアの市町村に存在する郊外住宅地において、今後人口減少・高齢化することで生じる問題への対応方策について、継続して調査研究を行う。

今年度は、次の2点について調査、資料収集を実施した。

〇鉄道沿線まちづくり、立地適正化計画等の自治体によるコンパクトシティ形成推進施策の調査・資料収集

〇民間団体、企業等による取組み事例の調査・資料収集

（2）都心近接エリアにおける鉄道沿線まちづくりに関する研究　（調査、資料収集）

都心近接エリアの活性化に向け、今後整備される鉄道等のインフラと関連付けて将来構想を立案するため、対象エリアを定めて調査研究を行う。

今年度は、約 20 年後とされるリニア中央新幹線の開通により、スーパーメガリージョンの西の玄関口と位置付けられる新大阪を中心として、十三及び淡路を含んだエリアを対象に、近未来（2030 年～2040 年）のまちのあり方を考察する方向で検討を進めていた。しかしながら、8 月末に、大阪市により新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会の立上げが発表され、大阪市が中心になって当該エリアの検討が進められることとなったため、当法人における調査範囲を十三に絞り込み、検討を開始した。

（3）研究交流セミナー「これからの郊外、住まいと鉄道」　（講座、セミナー、育成）

大都市圏の縁辺部に位置しながら鉄道ネットワークに支えられている郊外地域にスポットをあて、その環境資源を最大限生かした住宅地再生・再編の方策を議論するセミナーを、（公社）都市住宅学会関西支部と共同主催で実施した。

日程	タイトル	講師	参加者
7/10	「駅から始まる郊外再生」 ～沿線型コンパクトシティの形成を目指して～	関西学院大学総合政策学部　教授　角野幸博 関西大学環境都市工学部　教授　岡絵理子 武庫川女子大学生活環境学部　講師　水野優子 大阪大学大学院工学研究科　助教　伊丹康二 関西大学環境都市工学部　准教授　井ノ口弘昭 関西学院大学大学院博士後期課程　青木嵩 当法人　主席研究員　松根辰一	81 名

3. まちの国際化に関する調査研究

外国人観光客が大阪を中心に大阪・関西で急激に増加するなか、その受入れ環境整備は喫緊の課題である。また、海外から来阪するビジネスマンや外国人居住者にとって、これからの都心部の活性化を考えるうえで欠かせない要素となっている。彼らがストレス無く快適に活動することができるまちづくりのあり方について、調査や情報発信を行う。

（1）関西ツーリズムサポーターズ　（調査、資料収集）

外国人留学生から見た、大阪・関西のインバウンド観光や受け入れにあたっての現状について、意見を集約したり情報を発信することを、2013 年度より行ってきた。

今年度はメンバー15 人で活動を行い、6 年にわたった本事業を終了した。

日程	活動内容（テーマ）	テーマ提供者	参加留学生
6/17	「なにわ探検クルーズ」に乗って、川近くのまちを歩いて 水の都 大阪 の魅力を発見・発信しに行こう	水都大阪コンソーシアム	8 名
7/28 −29	梅田ゆかた祭での多言語案内等業務の対応	梅田ゆかた祭 2018 実行委員会	10 名
8/26	訪日外国人旅行者にも知ってもらいた防災情報とは～ 大阪市立阿倍野防災センターに行こう	（自主企画）	2 名
9/20	六甲山で「面白いこと、楽しいこと」を発見・発信	（自主企画）	5 名
12/06	第3回はなやか KANSAI 魅力アップアワード 候補12件について、意見を出そう	近畿経済産業局 通商部	4 名

（2）観光のひろば・観光イノベーションアカデミー　（講座、セミナー、育成）

（実施見合わせ）

（3）エリア MICE の推進に関する調査・研究　（調査、資料収集）

インバウンド観光のなかでも、都心ビジネス地区ならではの集客要素として、MICE（Meeting Incentive Travel Convention Exhibition/Event）誘致の取組みは欠かせない。梅田地区を例にとり、ユニークベニューの開発や窓口機能のあり方について調査・研究を行う。

今年度は、関連事業者をメンバーとする「梅田エリア MICE・観光誘致推進研究会」の事務局を務め、梅田における MICE 誘致にあたっての課題を共有し整理を行うことから開始した。

また、国際的なイノベーションの学会である「ISPIM」の会議を、2020 年に梅田に誘致するべく、関係者に梅田を紹介した。その他、大阪観光局主催のイベント「大阪 MICE デスティネーション・ショーケース」で、中国、シンガポール、東南アジア諸国、インド等、海外の MICE 事業関係者に梅田を紹介するプレゼンテーション、及び梅田の視察ツアーを行った。

【その他事業】産業とまちの活性化のために実施する公益事業をより有効なものとするための補助的事業

１．創薬関連プロジェクトの推進支援

大阪の地場産業である製薬業界の振興のため、非競争領域における創薬の基盤技術の普及や促進のための活動を支援する。現在は、コンピュータやヒト細菌叢（マイクロバイオーム）の利用促進に関する活動を支援している。

（1）（特非）バイオグリッドセンター関西の運営支援

文部科学省ITプログラム「スーパーコンピュータネットワークの構築」（バイオグリッド・プロジェクト）として、2002 年より 2006 年の 5 年間実施したプロジェクトを母体に、その研究成果の産業利用を目的に 2004 年に設立された。情報技術とバイオ、医療の融合分野における研究開発及び教育普及活動を行っている。

当法人は、2004 年度設立時より事務局業務を受託し、今年度も運営を支援した。

○事務局運営

第 15 回総会（5 月 26 日）並びにバイオグリッド研究会の開催をはじめ、バイオ研究者や製薬企業・ICT・バイオ関連企業関係者の交流事業やプロジェクトを運営した。

○バイオグリッド HPCI プロジェクト（KBDD プロジェクト）

2012 年度より、創薬にスーパーコンピュータを活用するプロジェクトとして活動している。参画者は、今年度末現在、製薬企業 19 社、IT 企業 2 社、京都大学、横浜市立大学、兵庫県立大学、大阪大学、（国研）産業技術総合研究所、（公財）神戸医療産業都市推進機構、千葉大学医学部、摂南大学、理化学研究所である。当法人は事務局として運営を支援している。また、現在活用しているスーパーコンピュータは、（特非）バイオグリッドセンター関西が付与されたスーパーコンピュータ「京」（無料産業利用枠）である。

今年度、当プロジェクトで取り組んだ「新薬開発を加速する『京』インシリコ創薬基盤の構築」は、（一財）高度情報科学技術研究機構が開催する成果報告会において優秀成果賞を受賞した。

（2）（一社）日本マイクロバイオームコンソーシアムの運営支援

本コンソーシアムは、2013 年度から活動してきた当法人の未来創薬研究会を母体に、2017 度にマイクロバイオーム（体内細菌叢）をテーマとして設立したものである。腸内、皮膚、唾液等のヒトの細菌叢の研究データの前処理や、解析法の推奨プロトコルの策定、健常人 DB の構築等を目標とする。会員は、今年度末で製薬・食品・化粧品企業等の 37 社となった。

当法人は設立時より事務局業務を受託し、今年度は、特に事業活動の広報活動を行い、新エネルギー・産業技術総合開発機構や農業・食品産業技術総合研究機構から、競争的資金の獲得をする等で、運営を支援した。

２. エリアマネジメント活動の支援

公益事業2において調査・研究したまちづくりのあり方の方策を実践に移すため、主に都心部におけるエリアマネジメント団体等の諸活動を支援している。

（1）梅田地区における案内所業務への支援

都心部における案内サービスのあり方を検討するとともに、各案内所で共通で利用できるツールの作成を通じて案内所業務への支援を行う。

今年度も、全体的な情報の把握と整理が必要なもの（バスのりば案内、鉄道路線図、金融機関等）のマップと詳細情報リストを 4 回更新作成し、各案内所に配布した。

（2）梅田地区エリアマネジメント実践連絡会の活動支援

（支援見合わせ）

（3）大阪エリアマネジメント活性化会議の事務局支援

大阪市と市内エリアマネジメント 8 団体で構成する会議で、大阪市内におけるエリアマネジメント活動の活性化に向けたアクションプランとガイドラインの策定を目指し、2016 年度に発足した。

当法人は大阪市とともに共同事務局を務め、会議の進行補助等、運営を支援した。

6 /14 第 7 回大阪駅周辺部会
6 /19 第 7 回中之島部会
6 /28 第 5 回御堂筋部会
7 /26 第 4 回大阪エリアマネジメント活性化会議（本会）
12/10 第 6 回御堂筋部会
12/18 第 8 回中之島部会
12/21 第 8 回大阪駅周辺部会
２ / 4 第 5 回大阪エリアマネジメント活性化会議（本会）

３.（公社）都市住宅学会関西支部の運営支援

本学会は、我が国の都市住宅・居住学について、社会、経済、技術、文化等の横断的な領域にまたがる学際的な学会で、1992 年に設立された。

同関西支部においては、公的住宅団地、子育て環境、超高層住宅のあり方や、鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくりに関する調査研究を実施している。

当法人は、2015 年より事務局業務を受託し、今年度も総会・常議員会ほか関連セミナーの運営を支援した。

４. 起業支援オフィス「GVH 大阪」の運営

GVH 大阪は、スタートアップのエコシステムを大阪に創ることを目的に、2011 年 1 月に梅田に開設した起業支援オフィスである。開設当時は、当法人のオフィスに入居する(株)サンブリッジグローバルベンチャーズが管理し運営を行っていたが、2016 年度より当法人の事業と位置づけた。

今年度も、施設利用会員である起業家に対し、オフィス環境の提供に加えて定期的にメンタリングを行い、事業の成長への支援を行った。利用会員は、今年度末で 42 法人 48 名である。

以上